

FURUTECH

Review

Audio Accessory

2021 AUTUMN 182 - JAPAN



これからの時代の必需品、手軽に使える電源アイテム フルテックNCF Clear Lineの ベストな活かし方を自宅で検証

空きコンセントに挿すだけのNCF Clear Line。理想の音へとクオリティアップできる、手軽で高信頼なアクセサリとして人気を博している。簡単に導入できるだけに、どこに使うとより効果的なのかは気になるところだ。そこで今回、日頃から電源周りのノイズ対策と検証を入念に実施している鈴木氏が、自宅オーディオシステムのさまざまなところへNCF Clear Lineを導入し、それぞれの場所での効果を比較。ベストな活かし方と使いこなしを探るレポートを実施した。

Main Photo by 田代法生



FURUTECH NCF Clear Line

ACオプティマイザー
¥25,080(税込、1個)



Specifications

[NCF Clear Line] ●サイズ：約39.5W×88.4Lmm●質量：約69g(ネット) ●全ての導電性パーツはロジウムメッキ+アルファプロセス処理●優れた振動減衰特性を持つマルチマテリアルハイブリッド構造

電源タップや壁コンセントの空いている口に挿すことによってノイズを除去する製品だ。本体のボディ部はNCF調合ナイロン樹脂製。電極部はαプロセス処理した純銅にロジウムメッキ。内部にはその電極部につながっているエアコイルが装着されている。コイルの素材は単結晶の銅で、2層の特殊ベイント処理。ハウジング部はナイロン樹脂とカーボンファイバー等による4層構造。作動原理としては、NCFの静電気除去と制振。各部の制振素材によるコントロール。そしてエアコイルの働きによって、AC100Vの電気が通る時に発生する振動由来のノイズ等を除去する、とフルテックでは説明している。

● NCF Clear Line の特徴
NCF素材などが複合効果を実現
挿すことでノイズ等を除去する



Text by 鈴木 裕 Yutaka Suzuki

● NCF Clear Line の導入レポート
どこに使うとより効果的か
使いこなしを自宅でチェック



「NCF Clear Line」の内部。エアコイルはα (Alpha) OCC単結晶銅導体エナメル線に「2段階～超低温処理および特殊電磁界処理～α-Process アルファプロセス」を採用。外層は高性能シルバーカー特殊制振塗料コーティングで振動を抑制

元のソースに入っていない付帯音を減少させ 透明感を増して音像を明瞭にしてくれる

今回はオーディオシステムのごに使用したいか、というテーマでテストしていった。拙宅のシステムを使ったが、普段はコンセント口に挿してあるノイズ対策のフィルター類を全て取り外し、電源タップ自体もノイズ対策のないものに。前段側は4口の電源タップで、インレット側の2口のひとつのコンセントにリアンプの電源ケーブルを、もうひとつのコンセントにCDプレーヤーからの電源プラグを挿した。後段側はまず4口の電源タップからパラメトリ

ックイコライザーとパワーアンプの電源を取り、パワーアンプはモラルなので、それを2口の電源タップで分けるという形を取った。さて、こんな条件の、ノイズに対して無防備の音。いつものようにエリック・クラプトンの「アンブラグド」を聴いていったが、高域は歪みっぽく、中低域の力感が薄い。ヴォーカルの「さ行」が強調。空間の奥行きが出ないのはノイズフロアが低くないことを示している。音には潤いがなく、メタリックでドライ。コード感もきれいに響かない。

1個で納得の効果を狙うならこの順番の導入がオススメできる

最初に、NCF Clear Line をひとつ装着するのはどこがいいか。いろいろやってみた結論は、CDプレーヤーの電源ケーブルの横に装着した時だ。この時の再生音は透明感が増して、程よくコントラスも強く、音像が明瞭に見える。また、高周波のノイズはソフトに入っている元の音にま

わりついて、音像どうしが癒着するような悪影響を与えるが、それがかなり減少している。

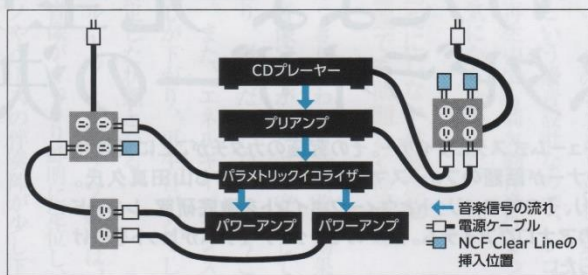
さて、2番目に効果があつたのはリアンプかパワーアンプの横か悩むところだが、パワーアンプの電源プラグの横に挿した時を挙げておこう。オーディエンスの拍手の量が妙に増えて雑然と鳴っていた感じが、ずいぶん抑えられている。大きく言うと、音楽ソフトに入っていない付帯音が減少しているのだ。音色的には雑味がなくなり、音像的にはまともになり、アンプの駆動力が増して、押し出しがよいように感じられるのもいい。ただ、空間の透明感や見通しの良さについてはCDプレーヤーの電源ケーブルの横に挿した方が良く、このあたり、いわゆる「上流がいいか下流がいいか論争」につながってくる。

ちなみにリアンプの横に挿した時は、CDプレーヤーの横よりも、低音の音像がはっきりしたり、サウンドステージがやや手前に展開して、音楽に近い感じが出てくる。プリの役目は絵で言えばデッサンで、まさにその要素の表現力が上がっている。ただし、高域の歪みっぽさが残るし、比較するとCDプレーヤーの横の方が効果が大きい。

2個目3個目と増設するとハイファイ性能はさらに向上

以上がNCF Clear Line

今回「NCF Clear Line」の最も効果的な使用方法を探る導入記で使用した、鈴木氏のシステム接続図



neをひとつだけ使った時の効果だが、できれば2つ目、3つ目を使いたいところだ。実際にやってみたが、上記の効果のある順番、つまりまずCDプレーヤーの電源ケーブルの横、2つ目をパワーアンプの横、3つ目をプリの横、というように増やしていくと、音の純度やハイファイ性能はどんどん上がっていく。「ノイズは外部からだけでなく、それぞれのコンポ―ネット自身でも発生し、電源ケーブルを通して還流させる」というのが筆者の考え方だが、特に、デジタルを扱うコンポ―ネットや、CDプレーヤーやアナログプレーヤーのようにモーターを回転させるもの、そしてパワーアンプのように大電力を消費するものに対してNCF Clear Line は効果が高い。ということで、複数使用も使いこなしの案として考えてみてほしい。



「NCF Clear Line」は、対象としたい機器の電源プラグ直近に挿すのがより効果的。写真はNCFコンセントを搭載のFURUTECHの電源ボックス「e-TP609 NCF」(¥187,000、税込)